
執筆者一覧

山本 博之 (やまもと ひろゆき)

京都大学東南アジア地域研究研究所准教授。専門は東南アジア地域研究／メディア研究。研究テーマは、ナショナリズムと混血者・越境者、災害対応と社会、混成アジア映画。映画に関連した編著書に『マレーシア映画の母 ヤスミン・アフマドの世界——人とその作品、継承者たち』（シリーズ「混成アジア映画の海」1、英明企画編集、2019年）、*Film in Contemporary Southeast Asia: Cultural Interpretation and Social Intervention* (Routledge, 2012) がある。混成アジア映画研究会代表。

西 芳実 (にし よしみ)

京都大学東南アジア地域研究研究所准教授。インドネシアを中心に多言語・多宗教地域の紛争・災害対応過程を研究。著書に『災害復興で内戦を乗り越える——2004年スマトラ島沖地震・津波とアチェ紛争』（京都大学学術出版会、2014年）、『夢みるインドネシア映画の挑戦』（英明企画編集、2021年）など。映画で東南アジア社会の課題共有をはかるシネアドボ・ワークショップにも取り組む。

平松 秀樹 (ひらまつ ひでき)

京都大学東南アジア地域研究研究所連携准教授。京都大学文学部卒、チューラーロンコーン大学大学院比較文学科修士課程修了、博士（文学、大阪大学）。専門は、タイ文学・文化、日タイ比較文学・比較文化、タイ地域研究。タイ国仏教教理三級国家試験（ナックタム・トゥリー）合格。仏教およびジェンダーの観点からみた比較文学・文化研究に関心がある。共著に『東南アジアのポピュラーカルチャー』（福岡まどか・福岡正太編、スタイルノート、2018年）など。

安里 和晃 (あさと わこう)

京都大学大学院文学研究科准教授。沖縄県生まれ。移民研究。フィリピンの農村研究から転向し、香港、台湾、シンガポールの外国人家事労働者の研究に従事。その後、アメリカやスウェーデン、アジア諸国の調査を通じて、福祉レジームにかかわらず進展するケアのグローバリゼーションについて研究する。アジアの高齢者政策、ケアレジーム論と移民の社会統合に関心を持つ。コロナ禍においては外国人住民などに食糧支援をしつつ聞き取りに従事している。

篠崎 香織 (しのぎき かおり)

北九州市立大学外国語学部教授。専門はマレーシア地域研究。マラヤ地域（マレーシア半島部とシンガポール）の華人社会を中心に、マレーシア地域の政治・文化・歴史を研究。著書に『プラナカンの誕生——海峡植民地ペナンの華人と政治参加』（九州大学出版会、2017年）がある。

橋本 彩 (はしもと さやか)

学習院女子大学国際文化交流学部日本文化学科准教授。専門は、スポーツ人類学、文化人類学、ラオス地域研究。主著は『ラオス競漕祭の文化誌——伝統とスポーツ化をめぐって』（めこん、2020年）。共編著書に『スポーツ人類学の世界』（虹色社、2019年）。近年はラオス映画の研究にも関心を持って取り組んでいる。

山本 文子 (やまもと あやこ)

大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程満期修了退学（博士、人間科学）。現在、和歌山県立医科大学ほか非常勤講師。専門は宗教人類学、文化人類学、ミャンマー地域研究。共書に『ミャンマーを知るための60章』（明石書店、2013年）。近年はミャンマー映画の研究に取り組んでおり、とりわけ映画史、ビデオ映画文化、メディアと宗教との関係に関心がある。

秋葉 亜子 (あきば あこ)

東京外国語大学大学院修士課程修了。ベトナム語通訳翻訳。字幕翻訳、映画祭での通訳のほか、上映事業のコーディネーターやベトナム映画のポストプロダクションに携わる。共編著書に『現代ベトナムを知るための60章』（明石書店、2004年）。字幕翻訳作品は『無人の野』（1979年）、『愛は17度線を越えて』（1972年）などの古典から『ベトナムを懐う』（2017年）、連続ドラマ『太陽の末裔～Love in Vietnam～』（2018年）、『走れロム』（2021年）の最新作まで。

岡田 知子 (おかだ ともこ)

東京外国語大学総合国際学研究院准教授。専門はカンボジア文学・文化。共編著書に『カンボジアを知るための62章』（明石書店、2012年）、『世界を食べよう!』（東京外国語大学出版会、2015年）、翻訳に『追憶のカンボジア』（同出版会、2014年）、『萎れた花・心の花輪』（大同生命国際文化基金、2015年）など。